広報くわな
KUWANA

目次 contents

02 伸びゆくまち・桑名
第25弾　医療DX・患者さまにとってより良いサービス提供を桑名市へ

04 キラリ★くわな人

05 特集 整備から製品化まで、持続可能なサイクルを
桑名の美しい竹林をもう一度

10 六華苑 de あそぼう

11 くわなの秋のイベント

12 子育て広場
図書館・六華苑・博物館

14 メディカルニュース
くわな防災教室

15 かんたん旨レシピ
みんなの掲示板

16 EVENT ALBUM（イベントアルバム）

18 くわなINFO

26 無料相談

27 くわなのSDGs
市長まちなか探索

28 HAPPY BIRTHDAY
桑名のイイトコ教えてください。

今月の表紙

桑竹会のメンバーや学生などが集まり、竹を使った流しそうめんを楽しむ様子。放置竹林問題の解決に向け、産官学が連携し、さまざまな取り組みを行っています。

キラリ★くわな人

フリースタイルスキーモーグル
ナショナルチーム 強化指定選手
伊原 遥香（はるか）さん

桑名市出身のフリースタイルスキーモーグル選手、伊原 遥香さんは、ナショナルチーム強化指定選手として活躍されています。これまで、何度も世界大会に出場し、上位の戦績を残してきました。

フリースタイルスキーモーグルとはコブが配置された雪面を滑走し、高いターン技術、エアー演技、ハイスピードの3要素で審査する競技です。

中学1年のころからモーグルを始めた伊原選手。以前は自転車競技選手だった両親の影響でずっと自転車競技に取り組んでいました。自転車で鍛えられた強靭な足腰から生まれるターンと、一つ目のジャンプから着地した後の滑りが伊原選手の強みです。

伊原選手は、昔からコツコツと一つのことに没頭して取り組む性格で、一度練習を始めるとごはんの時間も忘れるほどだそうです。競技を始めた時期が早くはないと止まらない性格だからこそ、今伊原選手ですが、スイッチが入ると止まらない性格だからこそ、今こうして活躍されているんですね。

今後の目標は2026年の冬季五輪で金メダルを獲ることと語る伊原選手。8月29日にオーストラリアで開催されたコンチネンタルカップに出場し、見事2位に入賞しました。

特集

竹ボールペン

竹のランプシェード

整備から製品化まで、持続可能なサイクルを

桑名の美しい竹林をもう一度

今、全国で課題になっている「放置竹林」。
他の樹木の成長を妨げる、土砂崩れが起きやすい、イノシシなどのすみかとなり、
農作物被害をもたらすなど深刻な問題です。
桑名ではこの問題を解決しようと、さまざまな取り組みが行われています。
その活動の様子をご紹介します。

問 この記事については秘書広報課（☎24-1492 FAX24-1119）

美しいツヤとやさしい手触りが魅力の桑名産竹を生かした手作りボールペン

「Ｋｕｗａｎａ」の刻印が印象的な竹製ボールペンは、桑名工業高校裏の竹林などで桑竹会メンバーなどの手を借りながら伐採した竹を使って、生徒が1本ずつ手作りしています。令和４年度から５００本の限定商品で、市内の郵便局で発売が開始されました。今回は製造現場を見せて頂きました。

まず細い棒状にカットした材料を旋盤（せんばん）と呼ばれる工作機械にセットし、きれいな円柱状にします。それから部分的に削ることで凹凸を作り、使いやすい細さにしていきます。手指の力加減により削る深さが変わってくるため、経験が必要となるそうです。効率を上げるため、木材のカットや旋盤加工、組みつけなど工程ごとに分担して作業していますが、1本のボールペンを作るのに1時間ほど要します。それでも、ワックスを均等に塗ったり、金属部分との接合部を平らにしたりと、細かな部分も気を抜かず、丁寧に作ることをモットーとしているそうです。

竹は堅く加工がしにくいが、ささくれから一気に割れてしまうこともあるそう。今年も500本の完成をめざしているそうです。

桑名工業高校 1年
坂口絢悠（こうすけ）さん

現在「ものづくり研究同好会」の3人でボールペン製作を行っています。初めは加減が分からず削り過ぎてしまうこともありましたが、これまで100本ほど作り、だんだんと感覚を掴めてきました。細部も丁寧に仕上げることを大事にしています。

制作の様子

課外活動として行っている「ものづくり研究同好会」。活動内容は生徒たちが自ら決めています。

制作の様子

旋盤を使って竹を削っている様子。刃物を竹に当てる角度や力の入れ加減などは、体で覚えるそうです。

購入場所
桑名市・木曽岬町内の郵便局 ※予約可

販売価格
2,200円（税込）

桑名と東京の学生が協同し竹のエシカルコスメ開発スタート

「竹林に入るのも初めて」という学生が多く、「想像以上に竹が大きい」「緑がきれい」などの声が上がりました。

7月22日、市内のとある竹林の横で流しそうめんをワイワイと楽しむグループ。市内の高校生や竹林整備を続けるＮＰＯ法人「桑竹会」メンバー、東京からやってきた高校・大学生の皆さんです。年齢も性別も立場もバラバラの人たちがここに集まった理由は、「桑名の竹を使って※エシカルコスメを作る」というプロジェクトのため。そうめんをおいしくいただいた後は、原料の竹を伐採し、竹の表皮を削ります。竹の表面に多く含まれる抗菌成分を集約するためです。

竹の伐採方法を教えるのは桑竹会。平成21年の設立時から地域の放置竹林を整備し、里山を守ってきました。チェーンソーを使えば速く楽に伐採できますが、取り扱いには研修が必要なため、高校・大学生はのこぎりで伐採します。竹が倒れる方向に人がいないか逐一確認したり、切った後の竹で人がけがをしないよう配慮したりと、細心の注意を払います。竹の表皮を削るのは小刀。もくもくと削り、約1時間半かけてようやく目標の1kgの表皮を集めることができました。

その後は商品開発のディスカッション。誰向けの商品にするのか？どんな商品を作るのか？など、意見を出し合いました。商品として形になるのはまだ先ですが、どんなエシカルコスメが誕生するのか、楽しみです。

なぜこのプロジェクトに参加したんですか？

「竹の十三夜」というイベントに参加し、竹から製品づくりができることに興味を持ちました。初めて竹林を間近で見て、その大きさに驚きました！

桑名・田中奏汰（かなた）さん

通学路にある放置竹林や、大雨の後の倒れた竹を誰が整備しているんだろうと気になっていました。まず一人一人が地域に興味を持つことが大事だと思います。

桑名・山口拳生（けんせい）さん

生態系を守る農業を大学のゼミで学んでいます。持続可能な社会を実現するためにも、竹林問題を解決する一助になればと思って参加しました！

東京・磯野アサさん

放置竹林について学ぶ機会があり、竹を活用した商品に興味を持ちました。地元の竹製品を積極的に購入する意識を持てるといいと思います。

東京・砂川颯一郎（そういちろう）さん

プロジェクトの密着レポートはこちらから

桑名の放置竹林問題について、東京と桑名の学生が交流しながら学び、竹を使った商品開発までを行うプロジェクト。11月に完成予定。

※エシカルコスメとは、人や環境、社会に配慮して作られた化粧品のこと。

桑名の放置竹林問題に取り組む 桑名竹取物語事業化協議会

伐採から事業化へのサイクルづくりへ 産官学連携がスタート

放置竹林問題を解決するために、企業、NPO法人桑竹会、大学などにより2021年に設立された「桑名竹取物語事業化協議会」。竹林整備の担い手不足、整備・加工コストが高額といった問題はもちろん、地域住民への放置竹林問題の周知を重要視しています。市内では桑竹会が2009年からボランティアで竹林整備を行ってきましたが、一時的な伐採では意味がなく、整備をやめるとすぐに元の竹林に戻ってしまいます。人材や資金を確保し、事業化することが必須条件というわけです。

伐採した竹は「まず建材としての活用を考えている」と蛭川さん(ヒルカワ金属㈱ 代表取締役)。ウッドショックにより木材価格が高騰しているなかで、環境価値のある建材として竹を提供するなど、付加価値を付けることで輸入木材の価格に対抗できないか、考えています。

まだまだ志半ばだという桑名竹取物語事業化協議会は、他にも近隣自治体との広域連携や、普段はキャンプ場などに活用し、非常時は避難施設にもなる竹林公園の造成などを構想しています。そのためにも一人でも多くの人が仲間に加わってくれることを切望しています。「桑竹会で活動して、健康状態が良くなったというメンバーもいます。私も整備に参加していますが、体力がつきますよ」と蛭川さんが話すように、興味を持ったらまずは桑竹会へ連絡し、見学だけでもしてみてはいかがでしょうか。

1 放置竹林

高齢化などによりタケノコ産地だった竹林が放置され、増えていく。

2 竹林整備・伐採

増えすぎた竹を伐採し、竹が密集しないように整備する。

3 運搬

切った竹を適度な長さにそろえ、運搬する。空洞のため、コストが高くなってしまう点が現状の課題。

4 集成材加工

現在、竹の集成材加工を行っている企業は日本で数社しかない。

5 製品加工

集成材を使って家具やインテリア小物などに加工する。

6 販売

消費者に使ってもらうことで竹を有効活用する循環を作ることが重要。

桑名竹取物語事業化協議会HP

これまでの取り組み

取り組み1 柿安シティホール

壁面や階段の手すりなどに竹を使用。自然素材の優しさが感じられます。ロビーに設置されたテーブル&チェアも、桑名の竹の集成材が使われています。

取り組み2 竹粉の有効性

粉砕機で竹を粉状にし、土壌改良剤として使用。肥料効果の有効性について、テストを行っています。また、竹粉を畜産での敷料として使うための試験を行っています。

教えてくれたのは

桑名竹取物語事業化協議会 会長 蛭川泰好(やすよし)さん

取り組み3 幼竹をメンマに!

桑名メンマを使ったラーメンメニューを開発中!

名古屋グルメ・みそかつが看板メニューの「矢場とん」は、竹取物語事業化協議会から提供された幼竹を使い、メンマの開発を行ってきました。一般的に出回っている中国産のメンマは「麻竹(まちく)」と呼ばれる種類ですが、桑名の竹は「孟宗竹(もうそうちく)」。種類の違いが固さにも影響し、まず食べられる柔らかさに仕上げることに苦労したそうです。昨年の試作はうまくいかなかったものの、今年はおいしく食べられるメンマが完成しました。

出来上がったメンマを使って提供したいと考えているメニューはラーメン。桑名のメンマとはまぐりを使った「桑名ラーメン」など、現在構想中とのことです。さらに他店にもメンマを提供し、自由な味付けでメニューを考えてもらうなど、活用の場を広げていきたいそうです。

出来上がったメンマ。たまりしょうゆや鶏だしなど、味付けにも試行錯誤を重ねています。

1m以上に育った幼竹を収穫し、きれいに洗って適当な大きさにカットします。

矢場とん 代表取締役社長 奥村与幸(よしゆき)さん

矢場とんホールディングス 代表取締役 鈴木拓将(たくまさ)さん

取り組み4 竹をインテリアアイテムに

竹の特性を把握してオリジナル商品を開発

多度町にある就労継続支援B型事業所「こんぱす」では、桑名の竹を使ったインテリアアイテムや雑貨類を制作しています。きっかけは、竹林を持つ職員がいたこと。「せっかくなら、桑名の名産である竹を使ってなにかできないか」と、竹のオブジェを作り始めました。

もともとDIYが得意だったという高間さんがまず試作し、うまくできたら利用者に伝えて商品作りをしてもらうという流れですが、竹は一般的な木材と異なり筒状なので自由度が低いことや、竹は繊維に沿って割れるなど加工の難しさがあり、初めは苦労したそうですが、利用者による丁寧な手仕事により、完成度の高い商品がそろっています。世の中にある竹製品などからヒントを得て商品ラインナップを増やし、今では40種類ほどの製品を販売しています。

のこぎり、穴あけなど、利用者それぞれができる作業を選んで作業しています。

竹に開けた穴から光が漏れる様が美しいランプシェード。サイズや色は種類豊富です。

こんぱす 施設長 髙間亮一(りょういち)さん